

事業の名称	浦100ツーリズムによる地域再生 ～100年後も続く地域を自然の循環と人の循環によって生み出していく～
名称	(一財)観光まちづくり佐伯
団体の活動状況 (実績があれば箇条書きで記入して下さい)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度～令和5年度 NEXCO西日本との連携事業(大分自動車道山田SAでの旅っちゃ企画)</li> <li>・福岡県での観光PR(各種イベント、ガーデンズ千早等)</li> <li>・令和5年度より新観光コンセプト「浦100」の活動開始</li> <li>・大分県南部エリアでの連携活動(日豊海岸ツーリズムパワーアップ協議会:臼杵市・津久見市・佐伯市)</li> <li>・大分県別府市との連携事業(別府から佐伯行こうキャンペーン)</li> <li>・団体旅行、教育旅行、特別列車、クルーズ船受入</li> <li>・佐伯市郷土の万能調味料「佐伯ごまだし」のPR活動・ガストロノミー世界フォーラム(奈良県)でのPR</li> <li>・年間を通じた食キャンペーンの実施:佐伯寿司街道、日豊海岸岩ガキまつり(宮崎県北部地域との連携)、東九州伊勢えび海道(宮崎県延岡市との連携)、どんぶり街道など</li> </ul>
プランの骨子 (箇条書きで記入して下さい)	<p>当市における、人口減少、受け入れ、移動の難しさといった観光としての地域課題を、単なる「観光」の視点でなく、新しい「カンコウ(関係人口)」視点で解決していくため、シビックプライドの構築・佐伯市内周遊コンテンツを達成する「浦100・佐伯市への関係人口づくり」を目的とする。</p> <p><b>1. インフラ整備(ヒト・モノ・コト)</b></p> <p>(1)ヒト:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①ガイド・通訳育成</li> <li>②音声アプリケーション「おともたび」導入</li> <li>③関係者気運の醸成</li> </ul> <p>(2)モノ:ガイド用備品の購入</p> <p>(3)コト:PR用の冊子、映像制作</p> <p><b>2. 持続性ある地域社会の実現を体験できるまちへの道「浦100道(SDGs体験ロード)」の文化醸成プラン</b></p> <p>ターゲット:福岡・熊本県・インパウンドの20～40代・ファミリー層、高速道路を利用するマイカー利用者</p> <p>(1)山川海を体験するコンテンツ造成 訪れる方々が浦100のコンセプトでもある自然の循環や、地域文化に触れ、体験いただける、市民共創によるコンテンツ開発を主軸に、当協会にて販売まで行う。</p> <p>(2)アップサイクルお土産商品の開発 佐伯市沿岸部では、年間多くの海洋ゴミが漂着し、地域学生・ボランティアなども行っているが、その処分等で100～200万円単位の費用がかかっている。100年後の佐伯市の為に、「捨てるではなく、活用する」ことをPRするための地域事業者とともに商品を開発・販売する。</p> <p>(3)音声ガイド「おともたび」によるスタンブラリー ガイドをフォローする仕組みとして、各地域の立ち寄りスポットに専用のQRコードを読み込むと、事前に収録した案内が流せるアプリケーションを導入。景観が良くても地域住民との接触が少ない地域でも、地域の方の音声を録音・配信することで、マイカー利用のお客様の興味関心や満足度を上げる仕組みを構築する。</p> <p>(4)市内外でのプロモーション活動 (1)～(3)の活動を認知してもらうため、福岡都市圏でのプロモーションにより、都市にする方々との関係を構築。都市と地域(佐伯)を結ぶインフラ(高速道路)を最大限に活かしながら、関係人口を増やしていきたい。移動の道中には、SAPAも存在するので、NEXCO西日本とも連携しながら地域一体となって取り組みでいく。また、佐伯市内での紹介やワークショップ体験を通じて、本事業の活動のPRを行い、シビックプライドの構築を図る。</p> <p>(5)他地域との連携 移動需要を創造するには、ターゲットエリアからの移動距離のハードルを考えると佐伯市単独ではなく、旅の出発地や宿泊地などとの連携が重要と捉え、別府市及び由布市湯布院との連携事業を推進する。そうした地域が連携したいと魅力とを感じるコンテンツ開発とネットワーキング活動が重要となる。</p>

事業活動地域(地図等で具体的に表示)

- 主要活動地域:赤点線内
- ①佐伯市街地
- ②本匠・弥生エリア
- ③宇目エリア
- ④鶴見エリア
- ⑤蒲江エリア

- 連携場所・地域
- ・佐伯IC-波当津IC 無料区間
- ・大分自動車道山田SA(下り線)他
- ・大分県別府市、由布市等

